

【教職課程における体験活動やボランティア活動の実施例】

◆新潟大学教育人間科学部

(Ⅰ)

1. 授業科目名 「教育実践体験研究Ⅱ」(選択必修科目：2単位)
2. 授業内容

本授業では、教育を受ける立場から、教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図るとともに、専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。小・中・高・幼など6コースに分かれて、実践的指導力を培うため、地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともに、これらを体験的に学習する。実習内容として、1泊2日の自然体験学習などがある。

(Ⅱ)

1. 実施事業名 「学習支援ボランティア」派遣事業
2. 概要

新潟市教育委員会との共同事業として、将来の職業として学校の教員を考え、教員免許状を取得予定の学生が、小・中・養護学校における教育・学習活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献するとともに、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的。

活動内容としては、学生、大学院生等を小・中・養護学校に派遣し、授業補助、個別指導、学校行事の補助等を行う。いずれも、当該学校の校長、教諭等の監督の下に行われ、例えば、週1回、全日又は半日のペースで、半年間程度継続する。

※今後、「教育実践体験研究Ⅲ」として単位化することを検討中。

◆香川大学教育学部

(Ⅰ)

1. 授業科目名 「教育実践基礎演習」(自由科目：2単位)
2. 授業内容

本授業では、学校教育の場である学校から離れた野外での子どもたちと触れ合う様々な活動を通して、子どもの気持ちや行動を理解し、教育実践のための実践的指導力の基礎を身につけることを目的としている。野外教育の意義と目的及び野外活動に必要な知識・技能を、香川県立五色台少年自然の家が主催する「野外活動指導者講習会」に参加して学習する。また、附属小学校の学校行事(宿泊体験学習)に参加し、子どもたちと触れ合い、子どもの心や行動を理解する。

(Ⅱ)

1. 授業科目名 「ボランティア活動」(自由科目：2単位)

2. 授業内容

本授業は、学生が自主的にボランティア活動に参加し、地域社会に貢献することを通して、生涯学習社会について実践的な学習をすることを目的としている。特に将来教員を志望する学生には、従来の教育実習とは異なる形で学校の教育活動に触れることも可能であり、それによって教育に関する実践力の養成に役立てることが期待できる。

◆佛教大学教育学部

1. 実施事業名 「学生ボランティア」サポート事業

2. 概要

京都市教育委員会と協定を結び、教育活動の支援を必要とされる京都市立学校・園に対して学生を派遣する。本学では、本事業に関するガイダンスや講習を行うなど、積極的に派遣学生の質を高めるプログラムを実施しているが、これは多くの教職を目指す学生にとって良い効果を生むと期待される。

教育職員養成審議会第1次答申（平成9年7月28日）（抜粋）

II 教員養成カリキュラムの改善

2. 教職課程の教育内容の改善

(3) 具体的改善方策

① 時代の要請を踏まえた改善を図る

(a) 地球的視野に立って行動するための資質能力を育てる

- 教員を志願する者の豊かな人間性を培う観点から、大学在学中の福祉体験、ボランティア体験、自然体験等を奨励するため、教職課程に選択科目を開設することなども含め、大学による適切な配慮が求められる。

(b) 変化の時代を生きる資質能力を育てる

- 教員を志願する者の人間関係に係る能力を高める観点からも、上記(a)末尾でも述べたような各種のふれあい体験や、サークル活動等への教員を志願する者の参加の機会を豊かなものとするよう、大学は十分配慮する必要がある。

(c) 実践的指導力の基礎を強固にする

イ. 教育実習の充実

《事前・事後指導：必修部分》

- ◎ 教育実習の事前・事後指導における「教育実習に準ずる経験」の対象施設として、現行制度においては、学校以外のものでは専修学校及び社会教育施設が挙げられている（施行規則第6条表備考第8号）が、事前・事後指導をより多様かつ効果的に実施できるようにするため、対象に社会福祉施設及びボランティア団体を追加することが適当である。

《多様な実習機会の確保：必修部分を越えるもの》

- 休業土曜日を活用した子どもたちとのふれあいの機会の設定、学校・教育委員会・大学の連携による子どもたちとの合宿・交流事業の実施、教育委員会の協力により教員を志願する者が毎週学校の授業等の補助を行う試みなど、近年、教職課程において様々な取組みが工夫されている。

各大学においては、このような多様な取組みを積極的に進めるとともに、「教科又は教職に関する科目」に属する授業科目として単位認定することも含め、教員養成カリキュラムへの適切な位置付けについて検討する必要がある。

- 必修部分を越える教育実習については、各大学の判断により、上記のような子どもたちを対象としたもの以外にも、福祉体験、ボランティア体験、自然体験など、多様な内容・方法の体験的実習を広く含めることが可能であり、各大学の創意工夫が期待される。

ク. 効果的な教育方法の導入

- 上記(a)及び(b)やイ.でも既に触れたが、教職課程における授業方法を改善するための一つの方策として、福祉体験、ボランティア体験、自然体験等に係る体験的実習を重視する必要がある。